ひめまつ

第 4 号

須賀學園生徒会誌

目次

表紙（色紙）……特別講師　島田謹二郎
巻頭のことば……學校長　須賀友正……
山の見える都會にて……特別講師　手塚　武……一
創立五十週年を迎えるに當りて……渡邊　甲……四
隨想……高二　阿部貞子外六名……五
隨想……小林　悠雄……五
詩……高二　大塚智子外九名……一二
春の訪れ（短歌）……一五
映畫評……高二　赤羽陽子外一名……一六
たそがれ（短歌）……一八
隨感……高一　增淵ミドリ外一名……二〇
たわごと……土岐……二五
ミレーの晩鐘（私の工作した日本刺繍）……高三　關口久子……二六
紅梅外……北島貞男……二七
俳句……二八
白百合の君……高二　小林トミ子……二八
復興第二回バザー記錄……三
映像……小林　悠雄……三六
詩……高二　玉造タミ外一四名……四〇
テーブルセンターに就て……高二　箕輪　靜子……四四
日だまり（短歌）……四五
雜感……高二　齋藤彌生外一二名……四六
霜ばしら（俳句）……五三
生徒會便り……五四
部報……五五
ナイトガウンの味について……高三　赤羽　陽子……六三
詩……高二　大根田幹子外一三名……六三
日本女性と和服……高二　大森　敏子……六七
俳句……六八
雜感……高一　岡ヨシ子外一名……六八
詩……高二　荒井高子外三名……七〇
編集後記……七三

巻頭のことば

學校長　須賀友正

寒波の中に、温かいものが漂い初めて、日ざしに、どこか早春のこゝろを感じる窓邊に「ひめまつ」に寄せる言葉をつゞるのは、私の幸福の一つだ……と、しみじみ考えながら今日は、樂しくペンをとつた。

今年もわが學園には、いろいろな事があつた。世界が大きく動き、それにつれて日本の内外にも、いろいろとむずかしい問題が山積している。私達の學園の出來事などは、むずかしい世界の動きから見たら、いずれも學園にとつてプラスになることばかりであり、從つて皆さんにとつても、プラスになることばかりだつたと言つてもいゝ。私達は、敗戰というきびしい現實の中で、こんなに靜かに、こんなに樂しく勉强ができると言うことに對し、ほんとに幸福をさとり、感謝しなければならないと思う。

この、あたへられた私達の生活の中で、幸福を感じ、感謝のこころをもつということ、これは私達の人間生成の上で非常に大切なことなのだ。幸福は慾望の限界の中にある。無限の慾望を追つている限り、幸福は容易にとらえ得ないだろう。

それこれと想いをめぐらしてみると、何と今年は本校創立五十周年にあたるではないか。五十年と一口にいうけれど、五十年は一人の一生に相當する、長い年月である。國の歩みからみても、この五十年の間に、日本が歩んだ道は、實に今日の結果につながる長いジクザクの道だつたといえる。そしてそれは、たまたま、一九五〇年と符節を合せていることにも何かの、意義を感ずる。

卒業生も八千有餘という數に上つている。初代校長須賀榮子刀自の功績について、この機會に私たちは、同窓生とともに改めて考えて見たいと思う。

五十周年を機會として、本學園も、さらに立派な飛躍をとげたいものだ。心を合せ、力を協せ、學園の和を基として進みたい。

學園以外の御協力を切にお願いして筆を擱く。

山の見える都會にて

手塚武

禮儀について

先日所用のため喜連川へ行き、たまたま同町小學校の校長先生と同行して學校へ向う途中、歸宅する多數の生徒たちと行き交つたが、校長先生に對する生徒たちのおじぎのいいのに驚いた。

みんな自然に、素直に、先生に挨拶して行く。私はその様を大變美しいと思つた。

進駐軍の將兵が來て、様々の話題を殘していつた。いわゆる異國振りのいろいろの話題だが、そのうち、フリーとかフランクとかの言葉をもつて表現されるものの一つに、アメリカ軍隊に敬禮が簡略化されていることがよく話題になつた。

日本の舊兵隊は、特に下級兵の場合など、日曜外出でもしようものなら、敬禮の連續で、ヒドイのになると、上等兵あたりから、往來の眞ん中で「敬禮がワルイ！　敬禮！」などとドヤシつけられたものである。

それに引き代え進駐軍將兵たちは、そんな野暮な態度はサラサラ見せず、それこそフランクリーにすべての動作が處理されている。というのが日本人には一種の驚きであつたのである。

日本の兵隊のそれは封建的人間像のそれであり、アメリカ將兵のそれは、近代的人間像のそれである、というように誰もが理解したのである。アメリカ軍の場合は、自然に、フランクリーなのであり、その中にチャンと秩序が保たれているのであり、かつての日本軍の場合は、强制された形式の中に無理な禮儀が保たれていたのだつた。と日本人のみんなが、その比較において「近代」と「封建的」なるものとを識別したのである。

自由な中に嚴然とした軍規が保たれているということは大きい問題である。それは彼らが生れた時からその成長の中で身につけたものであり、そのような態度を育んだ別の環境があるわけなのだし、日本の舊軍隊の場合は、外出したら敬禮ばかりしていなければならないような、そんな別の環境があつたわけなのだ。